

いわき農林水産ニュース

令和元年6月号(第172号) 発行 6月27日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



麦秋の季節。四倉町の新たな産地で育った
六条大麦「シュンライ」、大収穫です！

目次

- ・【特集】栽培わらび出荷制限解除への取組……p.1
- 〔各種取組の実績(5~6月分)〕……p.3~
- 〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の出荷制限等品目……p.6
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……p.6
- ・イベント情報……p.7
- ・田んぼの学校②生きもの調査……p.7
- ・第2回高校生レシピコンテスト受賞レシピ紹介……p.8
- ・GAPコーナー……p.9
- ・6次化商品紹介……p.10

【特集】

「栽培わらび」出荷制限解除への取組

原発事故から約8年。今年、新たに生産者2名の2つのほ場において出荷制限が解除され、現在、8名9ほ場から「栽培わらび」が出荷されています。

1. いわき管内の出荷制限等の現状

いわき管内におきましては、平成23年3月の原発事故以降、放射性物質の影響により、いわき市産の野生きのこや山菜7品目(原木なめこ(露地)、たけのこ、たらめ(野生)、ぜんまい、わらび(野生)、こしあぶら、さんしょう(野生))について、出荷制限及び出荷自粛が継続中となっています。野生きのこや山菜は、農産物直売所での重要な販売品目であり、生産者にとっても貴重な収入源であることから、制限解除の要望の声は多く寄せられており、1日も早い出荷制限及び出荷自粛の解除が求められているところです。



(栽培わらびの生育状況)

このような状況の中、生産状況の確認や確実な出荷管理が可能な「栽培わらび」の出荷制限解除に向けた取組を実施し、平成29年に6名7ほ場、今年5月には2名2ほ場を新たに出荷制限解除することができましたので、これまでの取組についてご紹介します。

2. 出荷制限解除に向けた取組

いわき市産わらびは、平成24年5月に出荷制限措置になりましたが、平成26年4月に「栽培わらび」の出荷制限解除の方針が示されたことから、平成26年6月以降「栽培わらび」出荷制限解除に向けた取組を始めました。

「栽培わらび」として出荷制限を解除するためには、次の作業を1年目に実施します。

- ① 栽培履歴の聞き取り、ほ場管理履歴の確認
- ② わらびほ場の生産環境の確認とほ場区域の明確化・区域分けの実施
- ③ ほ場の空間線量率、土壌の放射性セシウム濃度の測定
- ④ わらびの放射性セシウム濃度の測定

平成27年から解除に向けた取組を実施した6名の生産者については、いわき市産「栽培わらび」の安全性の確認のため、④わらびの放射性セシウム濃度の測定を平成28年、平成29年と実施する必要があり、解除までに3カ年を要しました。

今年5月、新たに2名2ほ場が出荷制限解除となりましたが、平成29年解除時に比べ解除までの期間が大幅に短縮されています。

調査項目は変わりませんが、先行解除の6名のご協力により、いわき市産「栽培わらび」の安全性が確認されているため、④わらびの放射性セシウム濃度の測定に係る規定検体数（ほ場面積により決定。最小で3検体2回実施。）の測定が実施できれば、最短で調査翌年には出荷制限解除が可能となりました。



(わらびのほ場の調査)



(土壌分析のための土壌採取を行っている様子)

3. 今後の予定

現在、3名3ほ場において出荷制限解除に向けた調査とわらびの放射性セシウム濃度の測定を実施しており、来年の山菜シーズンからは新たな生産者を加えた11名12ほ場から、いわき市産「栽培わらび」が提供される予定です。当所では、今後もさらなる出荷制限解除の拡大に向けて、生産者の皆様と連携しながら、これらの取組を進めてまいります。

本特集で取り上げたとおり、現在出荷制限が解除されている下記8名の生産者の「栽培わらび」については、安全が確認されておりますので安心してお召し上がりいただけます。管内の直売所等で販売しておりますので是非お買い求めください。

境英吉郎(わ204-1)	草野ヒサ(わ204-2)	佐藤正子(わ204-3)
草野久仁昭(わ204-4)	小野ツヤ子(わ204-5)	上桶売牧野農業協同組合(わ204-6)
折笠明憲(わ204-7)	芳賀末松(わ204-8)	※括弧内は生産者番号

※上記8名以外の方が「栽培わらび」として出荷することはできませんのでご注意ください。

※出荷制限等品目についての詳細は p.6をご覧ください。

(森林林業部)

お問い合わせ

「栽培わらび」の出荷制限解除を検討されている生産者につきましては、下記担当までご連絡ください。

■いわき農林事務所 森林林業部 林業課（特用林産担当）

TEL：0246-24-6193

いわき市植樹祭

〔6月1日(土)〕

好間町のいわきワイナリーガーデンテラス&ショップ (p.9 地図参照) 敷地内で第47回いわき市植樹祭が開催されました。

いわき市植樹祭は、いわき市と市緑化推進委員会の主催で行われ、東日本大震災で中断していましたが、復興の歩みを発信し、森林を守り育て、次世代に継承することを目的に平成28年に再開しています。

当日は、林業・漁業関係者らと市民約150人が参加し、少花粉スギ(雄花の花粉量がごくわずかな品種)をはじめとした苗木約300本を丁寧に植えていました。



(植樹祭参加者による記念撮影)

(森林林業部)

ホッキ漁解禁

〔6月3日(月)〕

沼之内魚市場 (p.9 地図参照) において、今漁期のホッキガイの初水揚げが行われました。いわき市漁業協同組合では、久ノ浜、四倉、沼之内の3浜でホッキ漁を行います。この日は四倉のみの水揚げでした。水揚げ数量は650kgと昨年の2浜での初水揚げ量より約1トン少なめでしたが、その分単価は良く、高値で500円/kgを上回り、平均単価でも昨年の8割増しの値がつき、解禁を心待ちにする地元の人たちの様子が目に浮かぶような相場となりました。



水揚げされたホッキ。玉の大きさや色で区別されます。

ホッキは、生か軽く湯がいてお刺身でも美味ですが、ホッキ飯や天ぷらもお勧めです。これからの季節、市内スーパー店頭でも並びますので、様々な料理でお楽しみいただければと思います。

(水産事務所)

山と浜の女性部の交流

〔6月7日(金)〕

JA 会津よつばみどり地区新鶴支部の女性部が視察のため、小名浜周辺の漁協関連施設を訪れました。一行は、今が旬のウニの貝焼きが加工される下神白加工施設や小名浜魚市場の高度衛生管理型荷捌き施設を見学しました。当日は、試験操業で水揚げされた魚介類のスクリーニング検査の様式や本県沿岸漁業の震災後の取組について説明があり、安全・安心の取組や沿岸漁業の復興状況に理解を深めました。

昼食は JF 県女性連いわき地区の部員による地魚料理のふるまいが行われ、初物のホッキご飯や子持ちのヒイカ煮付け、いわき市の魚であるメヒカリの唐揚げなど趣向をこらした料理に舌鼓を打ちました。昼食をきっかけに、山と浜の女性部員同士でお互いの苦労話や震災後の取組、風評対策まで話題が及び、今後とも手を取り合って本県の農業・水産を元気にしていくことを確かめました。

(水産事務所)



ふるまわれた5品。ホッキご飯、ヒイカ煮付け、メヒカリ唐揚げ、ヒラメフライ、サンマつまれ汁

愛谷江筋開削祖を祀る「水守神社」例祭

〔6月17日(月)〕

平山崎辰ノ口に鎮座する水守神社みずもりじんじや(p.9 地図参照)において、水守神社奉賛会「水守会」(会長:箱崎博光・愛谷堰土地改良区理事長)が主催する例祭が執り行われました。水守神社には今から約340年前に愛谷江筋を開削した三森治右衛門光豊みもりしえもんみつとよが祀られており、例祭に参列した氏子、来賓など約50人は、先人の偉業を讃え、今年も美しい田園を潤す水の恵に感謝しました。



(愛谷江筋開削祖を祀る水守神社)



(例祭の様子)

愛谷江筋は、今もなお、平赤井地内の愛谷頭首工(取水堰)により夏井川の河川水を取水し、平菅波、荒田目、下大越、上大越、藤間、下高久など夏井川右岸下流の約500haの農地を潤す幹線用水路の役割を果たしています。

(農村整備部)

第1回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン〔6月22日(土)〕

いわきの農産物の魅力やGAP(生産工程管理)を消費者へ紹介するため、GAP認証品を使用したトマトジュース(ワンダーファーム)やイチゴのコンフィチュール(稲郷神谷)の試飲・試食をヨークベニマル新谷川瀬店で実施しました。さらに、アンケートの回答者にはGAP認証のミニトマト(株)JRTマトランドいわきファーム)とフリルレタス(株)馨栄アグリカルチャー)をプレゼントしました。



(キャンペーンの様子)

試食いただいた方からは「おいしい」といった声が多く聞かれ、GAPに興味を持たれる方も多くいらっしゃいました。

(企画部)

オリンピック・パラリンピックの選手村に県産材を提供

〔5月31日(金)〕

小川町の協同組はいわき材加工センター小川工場(p.9 地図参照)において、東京2020オリンピック・パラリンピックで整備される選手村の交流スペース「ビレッジプラザ」の建設資材として活用される県産木材の第一便が出荷されました。



(県産材の出荷の様子)

この取組は「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」プロジェクトの一環で、本県を含む全国63自治体が参加しています。

今回出荷された木材は、県内の工場で製材、加工したヒノキ約21m³で、ビレッジプラザC棟の柱・土台として使用されます。

今後は、県産のスギ、ヒノキ約113m³を10月頃までに、複数回に分けて出荷する計画で、提供した木材は、大会後レガシーとして県内で活用される予定です。

(森林林業部)



JA福島さくらいわき地区梨部会栽培指導会 [5月15日(水)・16日(木)]

JA福島さくらいわき地区梨部会主催の栽培指導会が15日に小川・高萩支部の計3カ所、16日に平窪、赤井、内郷・好間支部の計3カ所を会場に、合計で41名の参加者のもと開催されました。

当所からは、栽培上の注意点、防除暦の変更、刈り払い機の安全指導などについて説明を行いました。生産者からは、「どのような果実を残せば良いのか」、「黒星病が心配だ」との声がありましたが、栽培指導会を通して今後の作業が確認でき、安心した様子でした。(農業振興普及部)

水稲あぜ道指導会

[5月下旬]

JA福島さくらいわき地区本部主催で5月22日から市内70カ所で第1回水稲あぜ道指導会が開催されました。当所では第5営農経済センター及び第6営農経済センターの指導会に出席し、今後の栽培管理方法と土壌改良について重点的に指導を行いました。6月下旬から始まる第2回の水稲あぜ道指導会では、県オリジナル水稲品種「福島40号」について、情報提供をする予定です。(農業振興普及部)



(指導の様子)

いわき農業青年クラブが食育活動を実施 [5月27日(月)・29日(水)、6月6日(木)]

5月27日(月)、いわき農業青年クラブ連絡協議会(以下、青年クラブ)は、遠野保育園において園児23名を対象に「やさい教室」を開催しました。本教室は園児たちに農作業を実際に経験してもらい、身近に感じてもらうことを目的に開催され、今回は、サツマイモ、キュウリ、ピーマン、パプリカ、ナス、ミニトマトの苗を植えました。園児たちからは「この苗を植えたい!」という声が上がリ、積極的に参加している様子が見られました。

また、5月29日(水)には常磐第二保育園の園児67名に、6月6日(木)には江名小学校の児童26名を対象に同教室を開催しました。青年クラブ員が作成したイラストを基に、当日畑に植える野菜に関するクイズを行いながら、苗を植えました。サツマイモの苗植えの際には穴掘りに苦戦していた様子でしたが、無事に植えることができました。園児たちからは、「早く食べたい」といった感想が聞かれ、収穫まで待ちきれない様子でした。(農業振興普及部)



苗の植え方を教わっています。(遠野保育園)



野菜に関するクイズに挑戦!(常磐第二保育園)



苗を植えたあと水をまきます。(江名小学校)



お知らせ

いわき地方の出荷制限等品目（令和元年5月分）

□ 農林畜産物の出荷制限等品目

令和元年5月末日現在、いわき地方の農林畜産物のうち、出荷が制限等されている品目は（表1）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。（企画部）

（表1）農林畜産物の出荷制限等品目（令和元年5月末日現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、 わらび（野生のものに限る）*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

※わらび（栽培）は該当生産者8名のほ場に限り出荷制限が解除されました。（p.1～ 特集記事参照）

□ 海産魚介類の出荷制限等品目

令和元年6月17日現在、出荷制限等指示魚種は（表2）の5種類になっています。（水産事務所）

（表2）海産魚介類の出荷制限等品目（令和元年6月17日現在）

制限、自粛	品 目
出荷制限	サクラマス、ムラソイ、カサゴ、ピノスガイ、コモンカスベ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（令和元年5月分）

□ 農林畜産物の検査結果

令和元年5月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した18品目78検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。内訳は（表）のとおりです。（企画部）

（表）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

わらび（栽培）44、ふき（野生）2、うど（野生）2、くさそてつ（こごみ）（野生）1、 もみじがさ（しどけ）（野生）1、菌床しいたけ（施設）8、エリンギ（施設）1、葉ネギ（施設）1、 カブ 1、スナップエンドウ（施設）1、キャベツ 1、コマツナ（施設）1、サヤエンドウ 1、 はちみつ 1、菌床なめこ（施設）2、グリーンピース（施設）1、牛肉 6、原乳 4
--

□ 海産魚介類の検査結果

令和元年5月の水産物モニタリング検査では、437検体の魚介類を検査し、放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、令和元年5月には99.8%となっています。（水産事務所）

イベント情報

「たからいち ～いわきパンまつり 2019～」

- 日 時：令和元年7月6日(土) 10:40～16:00
- 会 場：小名浜アクアマリンパーク(小名浜美食ホテル付近)
(p.9 地図参照)
- 主 催：公益社団法人いわき青年会議所

市内で人気のパン屋さんが集結する、パン好きにはたまらない食のイベントが開催されます。

パンの販売の他、ステージイベントやいわき産品が並ぶ飲食ブースも盛りだくさん。中でも、市内人気店舗の5名のシェフが考案する「うつくしま ふくしま プレート」は、会津、県北、県南、相双、いわきエリアの農産品(たから)を詰め込んだ、この日だけの限定メニューです！是非お越しください。

※この事業は、令和元年度「ふくしまプライド。」販売力強化支援事業を活用しています。

入場無料

第49回 福島ブロック大会いわき たからいち

地域のおいしい食べよう!

いわきパンまつり 2019

7/6(土) 入場無料 時間/10:40～16:00
会場/小名浜アクアマリンパーク(小名浜美食ホテル付近)

SHOP

つづらベーカリー	オールアワトベーカリー
パンケーキ屋勢	塩菓子屋
みつとん	紅かかげし
パンルージュ	わやつ屋 Meguru
【限定メニュー】 【たからいち限定メニュー】	
金太がかり屋	つとく
ジェノテリア パルコ	わやしのカフェ

F'sキッチンプロデュース!
この日だけの限定メニュー!
「うつくしま ふくしま プレート」!

会津、県北、県南、相双、いわきエリアそれぞれの農産品(たから)を詰め込んだスペシャルメニュー 5人の市内人気店舗のシェフが考案です!
この他、いわきの産品が並ぶ飲食ブースも充実!!

ステージ

時間	内容
10:40	開会式
11:10	「たからいち」発表会
11:30	「うつくしま ふくしま プレート」発表会
12:00	お楽しみ抽選会

JCI Junior Chamber International

田んぼの学校 第2回

「生きもの調査」に挑戦!

6月18日(火)



(生きものを捕まえている様子)

いわき市立菊田小学校(p.9 地図参照)の児童82名が、マコモダケを作付けしている水田の周りの土水路で、生きもの調査に挑戦しました。土水路内に生息する魚・カエルなどの生きものを、タモ網を用いて採捕しました。タモロコ、ナマズ、アマガエル、ニホンアカガエルなど、数え切れないほどの生きものを捕まえることができました。

はじめは、土水路内に入るのをためらっていた児童たちでしたが、徐々に慣れ、どろんこになりながら夢中になって生きものを捕まえていました。また、捕まえた生きものを種類毎の水槽に仕分ける児童もいました。

その後、生きもの専門家の春本氏(アクアマリンふくしま職員)より、捕まえた生きものについて解説をいただきました。タモロコはもともと東北地方には生息しておらず、放流用のアユと一緒に関西方面から持ち込まれたなどの話を真剣に聞いていました。

児童からは、「たくさんの魚が採れてうれしかった。」「生きもの様々な種類を知ることができた。」などの声が聞かれました。

(農村整備部)



アクアマリンふくしま春本氏の解説を真剣に聞く児童たち



高校生が考えた
オリジナルレシピを
作ってみよう!

第2回 高校生レシピコンテスト 受賞レシピ紹介

Vol.1

昨年度、いわき市内の高校生を対象に、いわき産のトマト・ネギ・きのこをテーマ食材として、「第2回高校生レシピコンテスト」を当所主催で行いました。応募があった32作品のうち、入賞作品をはじめとした優秀な作品12点をレシピ集に掲載しました。今回はその中から、「グランプリ/JA 福島さくら賞」を受賞した「いわキッシュ」のレシピをご紹介します！ (企画部)

いわキッシュ

北郷 麗奈さん

福島県立勿来高等学校 3年

調理時間：60分

食材費(4人分)：1,600円



材料・分量(4人分)

- エリンギ …………… 2本
- トマト …………… 2個
- 長ネギ …………… 1本
- パプリカ …… 1/2個
- ブロックベーコン … 60g
- 卵 …………… 4個
- 生クリーム …… 150ml
- イタリアンパセリ … 2枚
- オリーブオイル … 小さじ1
- オリーブオイル … 大さじ1
- バター …………… 20g
- ピザ用チーズ …… 80g
- 粒マスタード …… 60g
- 塩・コショウ …… 適量
- パイシート …… 2枚

作り方・手順

- ①エリンギとパプリカは大きめのさいの目切りにする
- ②トマトは湯むきし、種をとる
トマトはざく切りにする
- ③長ネギは斜め薄切り、イタリアンパセリはみじん切りにする
- ④ベーコンは軽く湯通し後、さいの目切りにし、小さじ1のオリーブオイルで炒め、粒マスタードであえておく
- ⑤パプリカと長ネギは大さじ1のオリーブオイルで炒め、塩・コショウで味をつける
- ⑥エリンギはバターで炒める
- ⑦ボウルに卵を割り、生クリーム、塩・コショウ、イタリアンパセリを加えて混ぜる
- ⑧型にバターを塗り、パイシートを敷き、フォークで穴を開けておく
- ⑨パイシートを敷いた型に、炒めたベーコン、パプリカ、長ネギ、エリンギ、ピザ用チーズを入れる
- ⑩⑨に⑦の卵液を加えて、上に②のトマトを置く
- ⑪180℃に温めたオーブンで30分焼く

COMMENTS

いわき市産のトマト・きのこ・長ネギを美味しく食べられるレシピは何かを考えて、最初に浮かんだのがキッシュでした。何度も試作をし、試食してくれた友達からの意見も取り入れて、レシピを考えました。粒マスタードで味にアクセントをつけたところがポイントです。

令和元年度第1回いわき地方GAP推進協議会を開催！

〔6月6日(木)〕

県いわき合同庁舎において、「令和元年度第1回いわき地方GAP推進協議会」を開催しました。

会議では、構成員である流通事業者、JA福島さくらいわき地区本部、いわき市とともに、これまでの管内での認証GAP取得状況や、現在の課題を共有し、今後の事業計画について協議しました。

流通事業者からは、「量販店はGAP認証農産物の販売コーナーを設置したい意向があるが、まだロットが少ない」「消費者の認知度がまだ低い」などといった意見が出され、これについて粘り強い認証取得の推進や、認証農場の見学ツアーの開催等を実施することとなりました。

引き続き、生産・流通・販売に係る各関係機関と連携し、GAPの認証取得と消費者理解の促進を進めてまいります。
(農業振興普及部)



(推進協議会の様子)

今月号に掲載した場所はここです！

- ① いわきワイナリーガーデンテラス&ショップ (p.3)
好間町中好間字半貴沢 34-72
- ② 沼之内魚市場 (p.3)
平沼之内浜街 186
- ③ 水守神社 (p.4)
平山崎辰ノロ12
- ④ 協同組はいわき材加工センター (p.4)
小川町下小川広畑129
- ⑤ 小名浜アクアマリンパーク (p.7)
小名浜辰巳町
- ⑥ いわき市立菊田小学校 (p.7)
山田町林崎前46
- ⑦ 和心 葉匠庵 (p.10)
平字田町1 いわき駅ビル3階



こだわりと美味しさがつまった いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

いわき駅ビル内に店を構える「和心 菓匠庵」では、いわき市産の果物を使用した和菓子を販売しています。和菓子職人の手で一つ一つ丁寧に作られており、「ピコブルーベリー農園(大久町)」のブルーベリーを使った「ブルーベリーのきんつば」は美味しい果肉がたっぷりつまった一品です。甘みが強い品種と酸味が強い品種を使用することで、絶妙なバランスの甘さに仕上がっており、豊かな風味を楽しめます。その他、「楽・農・人ゆうゆうファーム(小川町)」で栽培したニュージーランドが主産地の珍しい果物「フェイジョア」を使ったきんつばもあります。

また、「みかん大福」はふたば未来学園高校でビジネスの基礎を学ぶ生徒さんとの共同開発商品であり、甘酸っぱいミカンを100%使用したジャムを、白あんと混ぜて程よい甘さに仕上がっています。

和菓子職人の匠の技で作られたこだわりの味を是非、お召し上がりください。



- みかん大福 6個入り/756円
- フェイジョアのきんつば 1個/150円・8個入り/1,300円
- いちじくのきんつば 1個/120円・8個入り/1,060円
- ブルーベリーのきんつば 1個/130円・8個入り/1,150円

※価格はすべて税込み

お問い合わせ

和心 菓匠庵

●福島県いわき市平字田町1番地 いわき駅ビル3F
●TEL.0246-25-4524(FAX兼用)

有限会社 菓匠庵(本社)

●福島県いわき市好間町下好間字向山6-1
●TEL.0246-36-5564●FAX.0246-36-5211

Web:<https://www.wagokoro-kasyoan.com/>

所在地は p.9 のマップを参照

編集後記

今月は「栽培わらび」の出荷制限解除への取組について特集しました。来年も新規解除が予定されているということで、復興に向けて着実に前進しているのだなと実感します。

さて、22日に実施した「おいしい ふくしま いただきます! キャンペーン」(p.4 参照)では、多くの方に試食やアンケートに参加していただき、お昼過ぎには配布物がなくなってしまうほどの盛況ぶりでした。このキャンペーンが多くの方にとって県産農産物や GAP 認証品を購入してみようと思えるきっかけとなっただけであれば嬉しいです。今後のキャンペーンの開催も是非楽しみに!



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース